

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	障害福祉啓発事業				事業番号	011-121	
担当部署名	健康福祉局	局	障害福祉部	部	障害施策推進課	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5)障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現		
			有	取組の方向性	③障害者の社会参加の促進				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(10)人や国の不平等をなくそう		ターゲット	10.2	
			有	取組	障害者児及びその家族に対する支援				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	

2	関連計画	第5次堺市障害者計画・第7期堺市障害福祉計画・第3期堺市障害児福祉計画		
3	事業開始年度	平成 3 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	障害者基本法		

事業の概要

5	事業の実施主体	本庁		
6	事業の対象	市民	対象数	単位
			約80万	人
7	事業の目的	障害者に対する市民の関心や理解を促進し、また、障害者の社会参加意識の醸成を図る。		
8	事業内容	1. 大阪ふれあいキャンペーン実行委員会 大阪府・大阪市・堺市を含む府下の市町村及び障害者団体・地域福祉団体で構成する大阪ふれあいキャンペーン実行委員会に事務局市として参画し、ポスター等啓発物の作成や配布を行う。また、援助や配慮を必要としている方が周囲の方に知らせるためのヘルプマークについて、周知・啓発活動を行い、必要な市民に対しヘルプマークを配付する。 2. 障害者週間関連事業 健康福祉プラザにおいて障害者週間啓発イベント「障害者週間フェスティバル」を開催する。また、SNSやデジタルサイネージ等を活用し、障害理解の啓発を行う。 3. 心の輪を広げる障害者理解促進事業 将来を担う若者への啓発・広報活動の一環として、障害や障害者への理解や関心を促進するため、「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」を募集し、作品集の小中学校等への配布や駅構内でポスターを掲示することにより、障害者への理解促進を図る。		
	※国・府の基準より上回って実施した内容	—		
9	主な支出先	大阪ふれあいキャンペーン実行委員会		
10	公民連携・協働事業	—		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	ヘルプマーク配付数	個	目標値	2,790	2,790	5,000	5,000
			実績値	3,307	4,490		
			達成率	119%	161%		
	当該指標を選定した理由	ヘルプマークの配付数増加は社会の障害理解を促し、障害者の社会参加を促進させるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	目標値は大阪府からの割当数。実績値は障害施策推進課、各区役所地域福祉課及び保健センターにおける配付数合計。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	心の輪を広げる障害者理解促進事業に係る作文、ポスターの応募者数	人	目標値	30	30	30	
			実績値	7	13		
			達成率	23%	43%		
	当該指標を選定した理由	作文とポスターの応募数増加は社会の障害理解を促し、障害者の社会参加を促進させるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	目標値は前年度実績をもとに設定するが、前年度実績が目標を下回った場合は前年度目標値と同じにする。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	障害福祉啓発事業	事業番号	011-121
-------	----------	------	---------

Ⅲ. 投入量											
事業コスト					※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）						
13	財 源 内 訳	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度				
			決算	決算	当初予算	決算	当初予算				
		事業費（a）	164	184	183	157	183				
		国支出金	0	0	0	0	0				
		府支出金	0	0	0	0	0				
		市債	0	0	0	0	0				
		その他（ ）	0	0	0	0	0				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0				
		一般財源	164	184	183	157	183				
14	人件費（b）	810	810	840	840	870					
15	年間経費（c）=(a)+(b)	974	994	1,023	997	1,053					
事業費の内訳					（単位：千円）						
16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		印刷製本費	R7	決算	15	15		R7	決算		
			R8	予算	41	41		R8	予算		
		大阪ふれあいキャンペーン負担金	R7	決算	142	142		R7	決算		
			R8	予算	142	142		R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
R8	予算				R8	予算					
	R7	決算				R7	決算				
	R8	予算				R8	予算				
Ⅳ. 事業の効率性											
単位当たり経費											
17	①	ヘルプマーク配付数			個	3,307	4,490				
	②	上記①にかかる年間経費			千円	810	840				
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）			円/単位	245	187				
	算出についての説明等		ヘルプマークは大阪府から無償で配布されるものであるため、人件費のみ積算								
	Ⅴ. 評価										
費用対効果に係る所見											
18	令和7年度のヘルプマーク配付数は4,490個と大幅に増加し、単位当たり経費も低減したことから、費用対効果は更に向上した。 要因としては、市民の需要の高まりに加え、各区役所や関係機関との連携による適正な在庫管理及び効率的な配分を行ったことにより、必要とする市民へ安定的に配布できたことが挙げられる。 一方、「心の輪を広げる障害者理解促進事業」における応募者数は前年度の7件から13件へ増加したものの、目標には達していない状況である。 今後は学校への周知方法の工夫や継続的な働きかけを行い、応募機会の拡大を図る必要がある。										
	KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）										
19	本事業では、「心の輪を広げる障害者理解促進事業」の実施や「障害者週間フェスティバル」の開催、SNS・デジタルサイネージ等を活用した啓発を継続して実施した。 これに加え、ヘルプマークの配付数増加により、配慮を必要とする方への支援環境の整備が進み、市民の障害理解の促進に寄与した。 これらの取組は、障害者の社会参加の促進につながるものであり、堺市基本計画2025及びSDGs未来都市計画に掲げる方向性に引き続き寄与している。										
	令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）										
20	必要性	■ 高い □ 低い 本事業は、障害者基本法に基づき、市民に対する障害理解の促進や障害者の社会参加意識の醸成を目的とするものであり、共生社会の実現に向けた基盤的な取組として必要性は高い。これまでの取組により、ヘルプマークの配付数は増加し、単位当たり経費も低減するなど、費用対効果の向上が認められ、市民の障害理解の促進に一定の成果を上げている。しかし、一方で、「心の輪を広げる障害者理解促進事業」における応募者数は増加傾向にあるものの、依然として目標には達しておらず、若年層への働きかけ手法に課題が見られる。以上を踏まえ、今後も学校や関係機関との連携強化や周知方法の工夫等により更なる啓発効果の向上を図る必要がある。									
	有効性	■ 高い □ 低い									